

2023年 **10** 月 **21** 日(土)

1 席目: **9 時 20 分**より 受付は9時より

2 席目: **12 時 40 分**より 受付は12時30分より

会場

国登録有形文化財 旧石川組製糸西洋館

入間市河原町 13-13

西武池袋線入間市駅北口から徒歩約5分

プログラム

① 立礼による茶席 @本館1階食堂

席主: 清水宗江 (入間市の文化遺産をいかす会)

② お話「西洋館のおもてなし」 @別館和室

入間市博物館 学芸員

*①と②は15名様ずつ交代になります

③ 紙芝居「大川平三郎」 @本館2階和室

出演: 大川平三郎を広める会 (坂戸市)

*①~③で2時間程度の予定です

④ 館内見学&パネル展示

定員 各回 30名

チケット発売開始 9月7日

参加費 1200円 (西洋館入館料を含む)



大正時代、絹糸の取引先である米国貿易商を招くため
贅を尽くして建設された迎賓館で、一服いかがでしょう。
折上天井とアールデコ調の照明が美しい食堂に立礼のお
席を設けます。また、学芸員のお話しを通して、当時の西
洋館と石川家の雰囲気も知っていただけます。

チケット取扱い

- 石川洋行 ☎04-2962-3420 (黒須 1-10-31)
- d-lab gallery ☎04-2966-1091 (豊岡 5-2-25 101A)
- 西洋館 (公開日のみ: 9月9・10・23~26日)

主催: 入間市の文化遺産をいかす会
☎04-2962-3420 (石川)

共催: 入間市博物館 ALIT



西洋館 秋の茶会

おもてなしの心を伝えて



協賛



狭山茶料理 茶処 一煎

入間市博物館 ALIT 敷地内
☎04-2934-3316

旧石川組製糸 西洋館

西洋館は、石川組製糸の創業者石川幾太郎により、大正10年（1921）に迎賓館として上棟された洋風建造物です。外観は煉瓦調のタイル貼りの外壁と、アイブロウという換気用窓が載せられた変化のある屋根に特色があります。内部は部屋ごとに異なる天井や床の造形、照明器具、玄関ホールの大石製の暖炉、一木で作られた階段の手すり、特注の調度品など、最高級の材と職人の技術を惜しみなく使って作られています。



西洋館 1階食堂

石川幾太郎と 石川組製糸

石川幾太郎は、黒須村（現入間市黒須）で生まれ、代々続いた茶園を継いで製茶仲買商となりましたが、その後、製糸業に進出し、一代で石川組製糸を全国有数の会社に育てました。

石川組製糸は、幾太郎が明治26年（1893）に創始。当初は20釜の座繰製糸でスタートしましたが、翌年には蒸気力を利用した機械製糸に切り替え、大正11年（1922）ごろに業績が最高潮に達したと言われます。



西洋館地図



西洋館 2階貴賓室床の縁取り

石川家の おもてなし

石川幾太郎が作った西洋館には茶室と回遊式芝生庭園がありました。孫の源一郎も昭和21年頃、京都の職人を呼んで本館離れに三疊台目を建築しました（いずれも現存せず）。また、石川家の女性たちは茶道・華道をたしなんでおり、西洋館を訪れる来賓をもてなす心づくしが伺われます。

今回の茶会では、西洋館別館十畳和室から発見された掛軸「北野大茶湯高札図」を掛けます。

「北野大茶湯高札図」は、北野大茶湯300年記念茶会にちなんで、明治19年に榊原文翠が制作したもの。大茶湯の開催を知らせる高札図と秀吉の名物道具の会記がアレンジされています。



製紙王 大川平三郎

かの渋沢栄一は旧黒須銀行の創立時の顧問でしたが、大川はその甥にあたる人物。母の姉が渋沢の妻でした。

生まれは、万延元年（1860年）、川越藩横沼村（現坂戸市横沼）。伯父の渋沢の書生となったあと、王子製紙の社員として海外に学び、日本で初めて木材によるパルプ製造に成功しました。後に「製紙王」と呼ばれるようになるほど、実業界において縦横無尽な活躍をしました。

（坂戸市図書館 HP）



大川平三郎（国立国会図書館「近代日本人の肖像」）

入間市の文化遺産をいかす会

埼玉県入間市に残る文化遺産に興味関心のある有志を中心に2011年3月に発足した「入間市の文化遺産をいかす会」は、入間市内に残る文化遺産を掘り起し、調べ、知ることによって、その価値が現代にあっても色褪せることなく次代に受け継いでいくことを目的に、まち歩きや講演会、展示会などの活動をしています。

当日は西洋館本館2階ホールにて、文化遺産をいかす会の活動をパネル展示でご紹介いたします。

✉ iruma_ikasukai@yahoo.co.jp
<http://ib-ikasukai.jimdofree.com/>

